

第 19 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

平成 31 年 1 月 9 日（水）に、第 19 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院新中央診療棟 1 階多目的室 1 で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内外の医師、看護師、MSW、訪問看護師、薬剤師、心理士など参加され合計 35 名の参加者となりました。

当院の腫瘍センター副センター長吉野茂文医師より開会の挨拶があり、当院の緩和ケアセンター山縣裕史助教を司会として、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行いました。

事例：「多職種協働で意思決定支援し穏やかな在宅看取りが実現した盲腸がん事例」

山口大学医学部附属病院 看護部 兼安 惇史先生
ハピナス・エル訪問看護ステーション 野本 喜代美先生

グループ討議では、様々な視点から活発に意見が出され、参加者の方々からは、「大変勉強になりました。日頃の会話から患者さんの意向を聞く大切さを改めて実感しました」、「今まで見ていなかった在宅での緩和医療を学ぶことができるとてもいい勉強になりました」、「大変ためになる話を聞かせていただきました。自分の今後の関わりに活かしていきたいと思います」などの意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

この度は、様々な職種の方々に検討会に御参加して頂き、誠にありがとうございます。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

《検討会風景》



